国際農業工学'15 第２回レポート

農業農村整備事業において、建設コンサルタントは行政からおおまかな事業案を受けてそれを実際の計画案に移すために補強するような形で調査から設計までを行う。そしてゼネコンがその計画を実行に移す。つまり公共の場所の整備に関して政府と民間を繋ぐような特殊な位置に存在してその役割を果たしているといえる。

それ故に単に建設関係の知識だけでなく環境に関する知識(農業農村なので水質や土壌など)や、法律・経済に関する知識など多面的な視点も要求される。

また先ほども述べたように政府と民間の中間に位置し人々の暮らしに大きく関わる業種であるので、一般企業のように自社の利益のみを考えれば良いという訳ではなく社会貢献と繋がるような仕事が要求される。(国から一定の安定的な仕事は来るものの基本的にはなるべく安価で仕事を行うなど)

キーワードではないがやはり公衆の求める技術者像に関連部分が印象に残った。建設コンサルタントは公衆の生活に及ぼす影響がとても大きい業種であり社会貢献的な側面を普段の業務が帯びているので、正直コンサルタントという職業は根底では私利私欲を追求していると偏見を持っていた自分には驚きだった。またそれに関連して大村社長がおっしゃっていた金儲けのためだけの仕事は続かないのでやりがいのあることをやった方がいいという話も、そういう考え方もあるのだなと思った。社会的に企業コンプライアンスのような考え方は広まっているが、例えば学生層にもそれに近い社会貢献への意志のようなものが広まるとよいなと考えた。